

2019 年卒
Vol.07

6月1日時点の就職活動調査 <速報>

キャリアス就活 2019 学生モニター調査結果 (2018年6月発行)

2019年卒業予定者の採用面接が今月1日に正式に解禁され、就職活動が山場を迎えている。6月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は前年に引き続き、6割を超える高水準をマークしていたことがわかった。内定状況のほか多岐にわたる項目を調査したが、取り急ぎ主要指標のみ紹介したい。

1. 6月1日時点の内定状況

- 内定率は65.7%。5月(42.2%)より23.5ポイント上昇
- 前年同期実績(63.4%)を2.3ポイント上回る
- 就職活動終了者は全体の35.2%。前年(28.8%)より6.4ポイント上昇。継続者は64.9%

2. 未内定者が内定を得る見通し

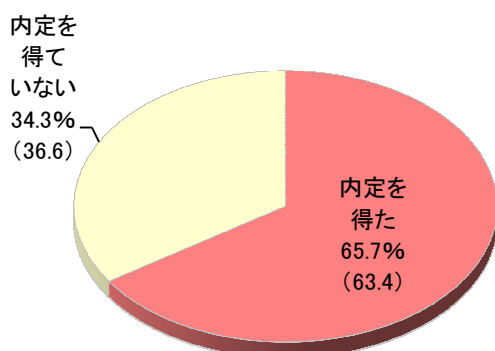
- 未内定者のうち7割(72.3%)が「内定の見通しが立っていない」
- 「就職以外の道(進学、留年など)を考えている」が1割を超える

1. 6月1日時点の内定状況

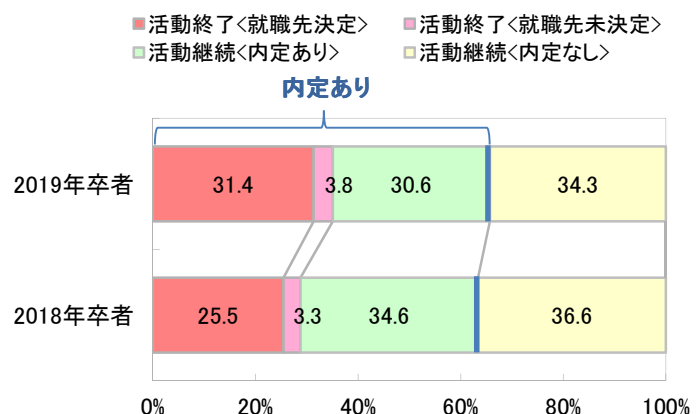
6月1日現在の学生モニターの内定率は65.7%。先月調査(5月1日現在)の42.2%から1カ月で23.5ポイント上昇し、2年連続で6割を超える高水準となった。ただ、5月調査では前年同期を4.7ポイント上回り内定出しの早期化が目立っていたが、ここにきて前年との差は縮まった(2.3ポイント差)。

調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は31.4%。複数内定を保留しているなど未決定である者(3.8%)を合わせると、終了者は35.2%となる。前年同期(28.8%)より6.4ポイント上昇しており、内定取得者の終了ペースが早まったことがわかる。その分、継続者の割合は減少し、活動継続者は「内定あり」(30.6%)、「内定なし」(34.3%)を合わせて64.9%。

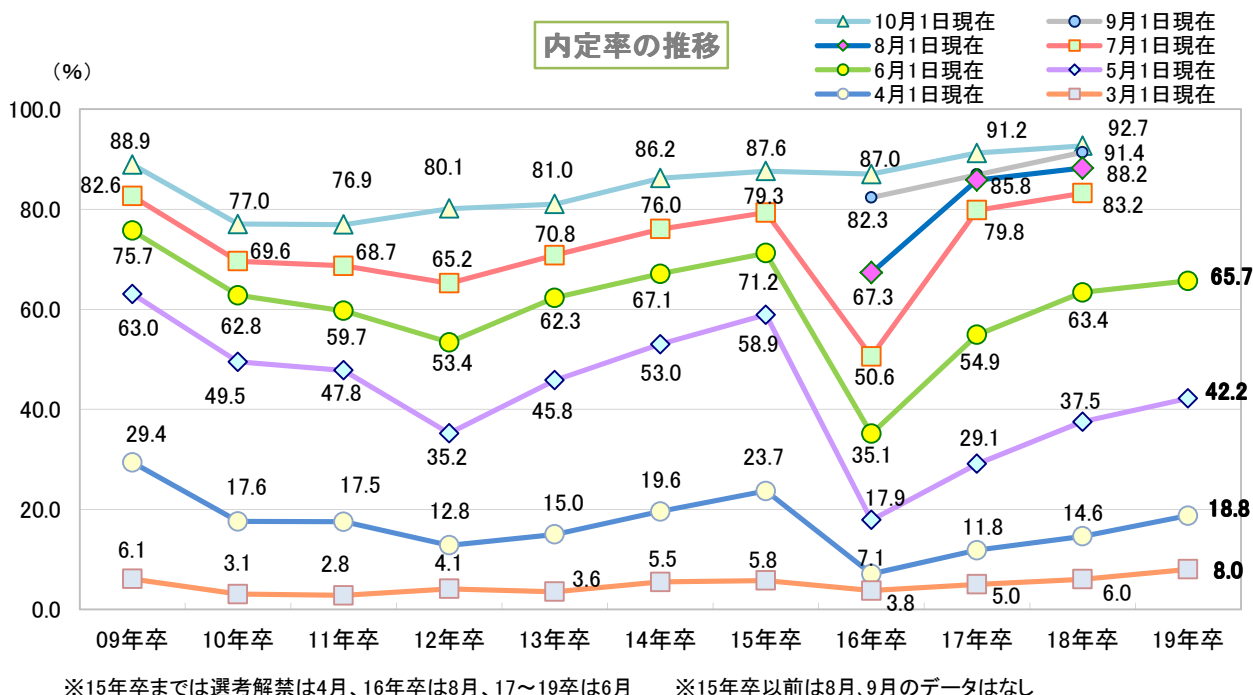
6月1日現在の内定状況



学生モニター全体の活動状況



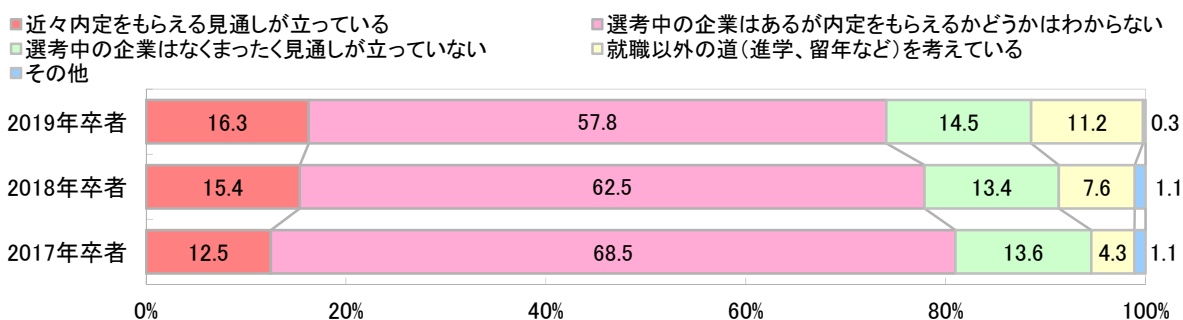
*「内定」には、内々定を含む
※()内は2017年の同調査での6月1日現在の数値



2. 未内定者が内定を得る見通し

内定を得ていない学生に内定獲得の見通しを尋ねた。「近々内定をもらえる見通しが立っている」が16.3%で、前年（15.4%）を0.9ポイント上回る。ただ、最も多いのは「選考中の企業はあるが、内定をもらえるかわからない」（57.8%）で、ここに「選考中の企業はなく、まったく見通しが立っていない」（14.5%）を足し合わせると72.3%になり、未内定者の7割強が先の見えない状況にあるようだ。一方、「就職以外の道（進学、留年など）を考えている」という回答が1割を超え（11.2%）、選考解禁直後にもかわらず、早くも来春の就職を見送ろうという学生が一定数いることがわかる。

未内定者が内定を得る見通し



調査概要

- 調査対象：2019年3月に卒業予定の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
- 回答者数：1,145人（文系男子339人、文系女子352人、理系男子296人、理系女子158人）
- 調査方法：インターネット調査法
- 調査期間：2018年6月1日～5日
- サンプリング：キャリアス就活2019学生モニター（2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」）

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリアスリサーチ